

風紋

vol.72 2022 / Winter

鳥取大学広報誌 FU-MON



つながる × 協働する

特集

地域に根ざす鳥取大学

注目の
研究

世界をリードする染色体工学
現在、そして未来の創薬シーズを生み出す

私たちの
研究室

工学部社会システム土木系学科
構造工学研究室

羽ばたく
卒業生

社会で活躍する先輩たちに今を聞く！

新任教員
紹介

地域学部 / 医学部 / 工学部
農学部附属フィールドサイエンスセンター

教養の場

教養科目「政治学」

※学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。



地域参加型研究推進室
 本学教職員・学生と地域のパートナーが、互いの強みを生かして地域課題の解決策を考える「地域参加型研究プロジェクト」の推進。

地域創生教育推進室
 地域への関心を高め、知識や実践的なスキルを身に付ける「地域創生推進プログラム」や、地域と協働する学生課外活動の推進。

エクステンション推進室
 地域住民の生涯学習や社会人教育、リカレント教育*の機会となる公開講座の開催や、本学教職員・学生が持つ知識・技能等の発信。

地域連携推進室
 地域志向人材の育成と県内就職・定着の増加を目指して、県内高等教育機関と連携し、自治体・商工団体・学校等と協働した取り組みの推進。

コミュニティ・デザイン・ラボ
 鳥大と地域をつなぎ、地域価値創造を促進する機構の活動拠点。ミーティングはもちろん、成果発表やワークショップ等の場として利用できる。

地域連携URA (University Research Administrator)

大学の研究者とともに研究活動の企画や管理、研究成果の活用促進などを行い、研究全般を支援する役割を担っている。

連携を深め、さらに一歩先へ

砂丘地農業に関する研究を皮切りに、本学は1949年の開学以来、地域に寄り添って直面する問題の解決に立ち向かってきた。そのスタンスは今も変わらず、地域との連携・協働を積み重ねている。

本学の研究や人材と地域とをつなぐ役割を担っているのが、「地域価値創造研究教育機構」(以下、機構)だ。前身である「産学・地域連携推進機構」の体制が見直しされ、2017年10月より、地域連携に特化した組織としてリスタートした。副機構長の清水克彦教授は、「地域に根ざす大学」というビジョンの実現に向けた仕切り直し。これまで以上に地域貢献できるような力を尽くしています」と語る。

機構の組織体制は上図のとおり。「地域連携URA」は、相談を受けた地域をどの教員・研究と引き合わせれば解決へ導くことができるのか、大学の研究シーズはどんな地域課題に活用できるのか、両者をつなぐ機構のキーパーソン。各室の枠を越えて横断的に関わる。

学生による小さな関わりも応援

さて機構は、幾つか特徴的な事業を

展開している。まず面白いのは、ラジオ番組「鳥取大学CoREラジオ」の放送だ。毎回本学教員をゲストに迎え、研究内容や身近な問題との関わり等を話すというもの。放送は既に50回を超えており、過去の放送はアーカイブで聴くことができる。

また「学生Small CoRE Project」は、地域社会と協働してさまざまな課題解決等に関わる学生の課外活動を資金的にサポートする事業だ。「お金の支援を受けることで、学生たちは余計に公益性や責任を意識するようで、具体的な成果が出せるよう工夫してくれています。ですから私たちは、時々進捗状況や方向性を確認する程度で、あとは彼らの自主性に任せている」という。そして「こうして学生が入ることで、地域との距離感が近くなった」と、清水教授はその効果を喜んでいる。

大都市集中型から地方分散型への転換が議論される近年、地方大学の存在価値が見直されている。「本学の研究は地域産業の核となるはず。学生と地域の関わりも、今後さまざまなパターンが生まれてくるでしょう。それを引くために今一度地域の方々と本音で語り合い、連携の在り方を一緒に考えていきたい」と清水教授。新たな創造をもたらす風は、もう吹き始めている。

特集

つながる × 協働する

地域に根ざす鳥取大学

鳥取大学は、「地域に根ざし国際的に飛躍する地(知)の拠点大学」というビジョンを掲げ、

社会から信頼され、地域に必要とされる存在になるべく一つ一つ歩みを進めている。

独り善がりではなく、地域社会とつながり、多様な形で協働する本学の取り組みをご紹介します。



しみず かつひこ
清水 克彦 教授
 地域価値創造研究教育機構
 副機構長



広報誌「風紋」は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で取材・撮影をしています。掲載写真は全て撮影時のみマスクを外しています。

ばばのばプロジェクト

馬場町から新しい風を吹かせます！

「ばばのば」にようこそ！！



毎月楽しいイベントも企画！

駄菓子の販売だけでなく、季節に合ったイベントも企画。11月はゲーム大会を開催！的当てゲームやクイズ大会で盛り上がりました。

屋台もメンバーの手作り！

地域の方に頂いた土台をベースに、屋根を付けたりペンキを塗ったりして改修。「ばばのば」の看板は、1人が1文字ずつ書きました！



※イベントは新型コロナウイルス感染防止対策（検温、消毒、来場者管理）を十分に行った上で開催しています。掲載写真は全て撮影時のみマスクを外しています。

「せっかく鳥取に来たんだから、地域へ出かけて活動したい！」
そう考えて自主的・主体的に課外活動に行う鳥大生は結構多くいます。
機構の「学生 Small Core Project」を活用して、
地域で生き生きと活躍する学生生活の一つをご覧ください。

駄菓子で生み出す地域の交流

屋台の上にいっぱい並んだ駄菓子をみると、子どもたちの表情がパッと明るくなった。「かごをどうぞ」と店員の学生が優しく声をかけると、早速お気に入りの駄菓子を手に取り、うれしそうにほほ笑んだ。
地域学部の4名が取り組む「ばばのばプロジェクト」は、地域の多世代が交流できる機会をつくらうと、屋台の駄菓子屋さんを運営している。ちよつと変わった事業名は、活動を行う町の名前から。鳥取市馬場町にある助産院「産

子」。「子どもは駄菓子が好きだし、高齢者にとっては懐かしいもの。会話のきっかけになるのでは」。駄菓子の販売だけでなく、季節のイベント、ゲームやクイズも企画する。助産院が毎月第3土曜日に行うイベントに合わせて駄菓子屋を開くと、多いときは100名以上の親子、近隣住民が来てくれるという。清水さんは、「楽しかった」という声を聞く達成感があります。クチャコミで少しずつ広まっていることもうれしいと笑顔を見せる。
とはいえ、地域の人々との協働はすんなりいかないことも。お互いの意見が食い違ったとき、どうすり合わせていけばいいのか。大人とのやりとりには慣れていないだけに、悩むことも多いようだ。それでも「地域のリアルを目の当たりにできるし、座学では学べないことがたくさんある」と、メンバーは前を向く。活動から多くの学びを得て、人間力を高めているのだということが、彼らの言葉からよく分かる。「関わってくださる方々がいるからこそできてい活動。助産院の方をはじめとする地域の皆さん、大学の先生方、そして仲間への感謝を忘れず、今後も活動していきたい」と清水さん。はじめは小さな活動でも、その実りはきっと大きなものになるだろう。



「たしかこの駄菓子、賑わいしよーかー」

地域だけでなく学生も成長

子どもと高齢者、両者に共通するものを考えたとき、浮かんだのが「駄菓

後ケアやわらかい風」と協働し、その玄関先を借りて屋台を開いているのだ。
「今、子どもと高齢者のつながりが希薄になっている。月1回でも交流できる場所をつくらうと考え、プロジェクトを立ち上げました」と代表の清水愛結さん。「大学に入ったらか地域活動がしたい」と思っていた友人たちに声をかけ、入学後すぐに活動を始めたという。

MEMBER

かわぐち ひろむ

川口 大夢さん
地域学部1年



しみず あゆ
清水 愛結さん
地域学部1年



おかだ ゆい
岡田 悠生さん
地域学部1年



のま たかひろ

野間 嵩央さん
地域学部1年



ばばのばプロジェクトの公式インスタグラムで情報発信しています！



地域と連携した研究を通じ、新たな価値を創造

地域の抱える課題を解決するための研究プロジェクトを推進・支援している。より良い暮らし、伝統・文化の継承、産業の活性化や新産業の創出など、さまざまな分野で地域住民・自治体・企業と教職員との協働を、地域連携URAが仲立ちしながらプロジェクトを進めている。本学農学部教員が発掘した新たな発酵微生物「ローカル酵母」を用いたサワービール、日本酒、シードル、パン、ピザなど、地域のスモールビジネスにおいて特色ある商品の開発に成功したプロジェクトもあり、地域活性化など課題解決へとつながる成果が現れている。



地域参加型研究推進室



地域創生教育推進室



地域社会で活躍できる人材を育成

地域社会が抱える困難を直視して、その課題を創造的に解決することができる人材になってほしい。「地域創生推進プログラム」は、そのための知識、デザインする力、実践力を養うことができるプログラムだ。個々の学生の専門を背景にしつつ、地域の実情や課題の理解、それらを解決するための汎用的な思考や企画立案の方法、プロジェクトによる協働の方法、実務と接点のある講義、インターンシップによる現場体験、学部教育での専門性の修得といった多層的なカリキュラムで構成。定められた科目の単位を取得すると、修了認定証が発行される。

生涯学習の機会を提供する公開講座

公開講座「サイエンス・アカデミー」は、本学教員の研究や関連トピックを分かりやすく紹介するとともに、地域住民に生涯学習の機会を提供する取り組み。1995年10月から始まり、これまでに延べ2万2千人以上が受講。毎月第2・4土曜日、鳥取県立図書館を主会場に開催している。県内の各図書館にも会場を設置してライブ中継。また近年は、Zoomを利用して自宅でも視聴できる。昨年6月に迎えた第500回目では、中島廣光学長による記念講演を実施。菌類きのこ遺伝資源研究センターを中心とした菌類きのこ研究、自身のカビ研究の成果を紹介した。

エクステンション推進室



コミュニティ・デザイン・ラボ



鳥大と地域が出会い、協働する拠点

地域と大学、学生と教職員、学生同士の出会いと、協働による地域価値創造を促進する場として、正門に入って最初に目につく広報センター内に設置。建物の外側から中の活動の様子を見ることができ、外部に配されたウッドデッキにより中と外の連続性が意識されており、人が入りやすい・集まりやすい空間となっている。テーブル、いす、ホワイトボードは自由なレイアウトが可能。マイクやスピーカー、プロジェクター、Webカメラ、モニター等も完備。ミーティングや成果発表、講演会、セミナー、ワークショップなど幅広く利用できる。



建築学びの団体「CITA(シータ)」の活動

「鳥取県を通じて建築を知る、建築を通じて鳥取県を知る」が理念。県内の建築企業に協力していただきながら独自のデザインゼミ、現場見学やコンペティション出場、空き家改修などを行い、より深く建築を学ぶ活動を展開している。



発達障害児をもつ保護者を支援する「LINE Bot」

発達障害児をもつ保護者の育児や、その頑張りに対する自動フィードバック機能を搭載したLINEの補助ツール「LINE Bot(ラインボット)」を開発。システムの環境整備を行い、現在は数組の親子にご協力いただきながら動作環境をテスト中。



青谷アピオス大作戦 ~農業で地域とつながる~

農業を通して地域住民や高校生と交流することを目的とした活動の一つ。鳥取市青谷町の耕作放棄地増加を食い止めようと、「もうかる農業」の実現を目指し、「アピオス」という芋に似た作物を青谷高等学校の生徒と一緒に育てている。



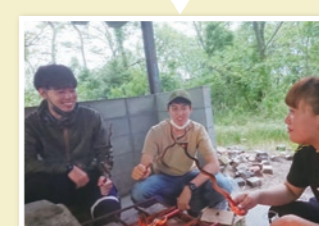
お金ではない“支え合いのしくみ”づくり

地域における困り事や相談事を、SNSを利用して迅速に対応する仕組みを考える活動。「ねこのて掲示板」という、誰もが使えるオンライン掲示板の準備が進行中。また、スマホ講習会を実施するなどしてデジタル格差解消も目指している。



まちづくりファシリテーション研究会

話し合いやワークショップ等における「ファシリテーション(進行)」技術の向上を目指す研究会。県内の自治体や学校で行われるワークショップに参加し、事前準備は何か必要か、話し合いの進め方・まとめ方などを実践形式で学ぶ。



御来屋駅舎活性化プロジェクト

鳥取大学鉄道研究会と西伯郡大山町御来屋(みくりや)地区の住民が連携し、山陰最古の「御来屋駅舎」を拠点にした観光による地域活性化の取り組み。昨年のキックオフイベントでは、同駅待合室を活用して「山陰鉄道写真展」を開催した。



野菜オーナーになって野菜を育てよう

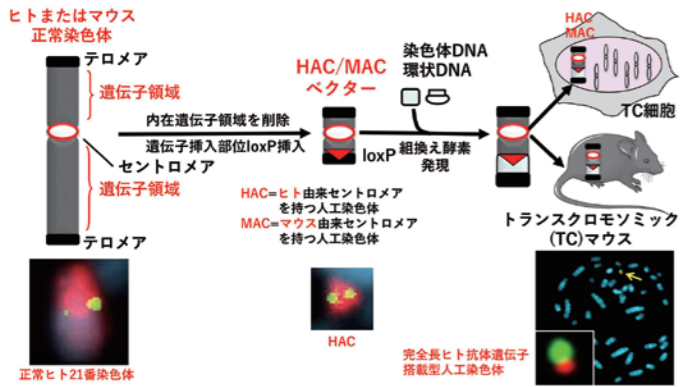
「旬の野菜を食卓へ結ぶ」をコンセプトに、野菜の栽培・販売に取り組む農業サークルの活動。地域の子育て応援サークルと連携し、親子で楽しむ農業体験イベントを開催。旬の野菜を栽培・収穫する楽しさ、その美味しさを伝えている。

浜村地区活性化学生プロジェクト

鳥取市気高町浜村地区の活性化のため、浜村地区活性化委員会にアドバイザーとして参画。商店街や公共施設、文化財等を視察して分かったことや、戸別訪問で集めたアンケートなどを基に、学生ならではの視点で提言を行っている。



機構が応援する、学生の主体的な地域貢献・活性化活動をご紹介します。大人が思いつかないような視点、アプローチの仕方が面白い！



最大の特徴：染色体レベル (Mb単位) の遺伝子導入が可能

図2 ヒトおよびマウス人工染色体とトランスクロモソミック細胞・動物の構築方法

この大型客船には、生命体にとって欠かせない多くの因子(乗船者や荷物)が乗っています。そこで大型客船の船体や必要素はそのままにして、乗っているすべての因子に、いったん下船していただく。つまり、まずはクリアな状態の空っぽな船に仕立ててみようと考えてつくったのが人工染色体です。そして空っぽにした船に、今度は必要とされる任意の因子(遺伝子)を積み込んで、細胞内や生体内での新しい航海に出てもらいます。人工染色体はその積載量がとても大きいので、たくさんの遺伝子を運ぶこ

空っぽからのリスタート

とができるのが特徴です(図2)。では、この人工染色体を用いて何ができるかというと、一つは難病の治療に有効な新しい薬の開発、すなわち創薬研究とその実用化に役立てること。また、未知遺伝子の機能の解明につながる基礎研究に資する新たな知見を提供できることなどがあります。私たちはこれまでに、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を用いて患者さんで欠損している遺伝子をヒト人工染色体に組み込み、難病「デュシエンヌ型筋ジストロフィー」の遺伝子修復につながる研究成果を得てきました。また、ダウン症候群に関連して発症するとされる白血病に関わるモデル細胞の作製など(図1右)、染色体工学による最新のさまざまな試みが続いています。

ヒト型実験動物からの恩恵

がんなどの疾患や新型コロナウイルスのような感染症の新しい治療薬は、研究段階から一足飛びに実用化に結び付くわけではありません。そのため私たちは、治療薬の安全性評価や治療薬の候補を作り出すために、染色体工学の技術を用いたマウスなどに活かして「ヒト型モデル動物」の開発にも役立てています(図2・3)。

医学や生物学などに触れるとき、よく細胞の中にあるDNA「注」とか遺伝子といった用語に接します。これら生命体に欠かせない一つひとつの要素に関連して、遺伝子の情報を記録するDNAをコンパクトにまとめて積み込んだ「染色体」という物質があります。私たちは、この染色体について研究しています。ヒトもサルも鳥も、その他多くの生き物たちも、長い歴史を通じて命をつないでいます。それは「染色体に基づくもの」ではあるけれども、その染色体は過去から現在、そして未来へと進化し変化し続ける余地を持っています。染色体工学はもともと、がん細胞の染色体研究から始まりました。それは鳥取大学医学部に、医学部としては、日本で初めて設置された生命科学科の押村光雄先生(鳥取大学、名誉教授)や久郷裕之先生(細胞ゲノム機能学分野、教授)たちによる研究が基礎となっています。ヒトには23対46本の染色体がありますが、がん細胞を詳しく見ていくと特定の染色体が抜け落ちる現象(染色体異常)が発見されました。であれば、正常な細胞からその抜け落ちた染色体をがん細胞に入れてみてはどうかと考え、「望みの染色体を細胞から取り、これを種差と言いますが、この種差が原因で治療薬のヒトでの安全性を実験動物では予測できないことがあります。そこで、「人工染色体」を用いて薬物代謝酵素の遺伝子を置き換えることによりヒトと同じような薬の代謝をすることが出来ます。その動物の助けを借りて、新薬の有効性や安全性の実証に役立てることが出来ます。

別のヒト型動物の例では、ヒト型抗体産生マウスの開発に成功し、新型コロナウイルスに対応する新しい治療薬(抗体医薬品)の創出に向けて大きな役割を担っています。というのも、本来マウスはヒトにとっては異物であるマウスの抗体、すなわちヒトに副作用をもたらす抗体しかつくれません。そこで、「人工染色体」の力を借りてマウスにヒトの抗体を産生する能力を持たせることで、そのヒト型マウスからヒトに対して安全性の高い「抗体医薬品の種(シーズ)」を開発することが出来ます。最近では国立感染症研究所、北海道大学、株式会社Trans Chromosomicsなどの共同研究で、このヒト型マウスを使い、新型コロナウイルスやその他のコロナウイルスに有効な抗体医薬品シーズの作製に成功しています。人工染色体の研究について私は生命体の中の「大型客船」の役割を例えにして

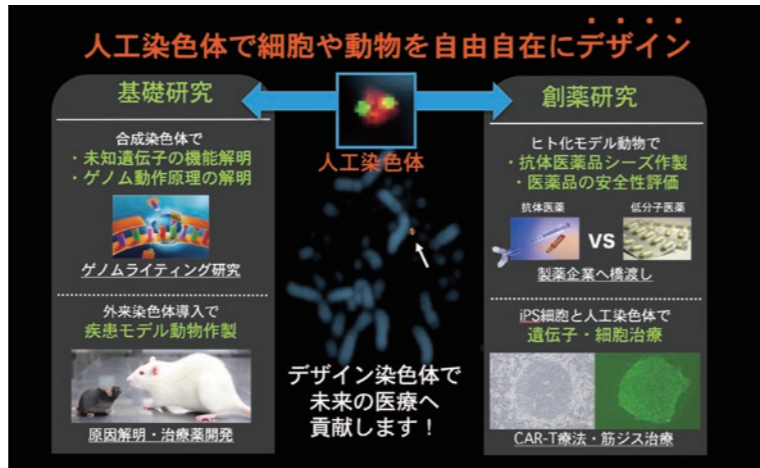
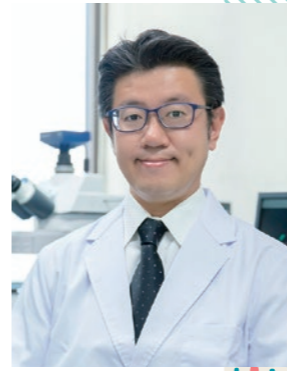


図3 人工染色体を用いたデザイン細胞・動物による基礎研究から創薬研究

注目の研究

世界をリードする染色体医工学
現在、そして未来の
創薬シーズを生み出す



かつき やすひろ
香月 康宏 准教授
医学部生命科学科分子細胞生物学講座細胞ゲノム機能学分野
専門 染色体医工学/合成生物学
実験動物学
趣味 サッカー

「地球の歴史は地層に、生物の歴史は染色体に記されてある(遺伝学者：木原均博士)」とも表される染色体。膨大な数の細胞で成り立つ個々の生物ですが、その細胞一つひとつにある染色体の働きや機能を活かして疾患発症の原因解明や創薬に役立てようとしています。

生体内の「大型客船」

医学や生物学などに触れるとき、よく細胞の中にあるDNA「注」とか遺伝子といった用語に接します。これら生命体に欠かせない一つひとつの要素に関連して、遺伝子の情報を記録するDNAをコンパクトにまとめて積み込んだ「染色体」という物質があります。私たちは、この染色体について研究しています。ヒトもサルも鳥も、その他多くの生き物たちも、長い歴史を通じて命をつないでいます。それは「染色体に基づくもの」ではあるけれども、その染色体は過去から現在、そして未来へと進化し変化し続ける余地を持っています。染色体工学はもともと、がん細胞の染色体研究から始まりました。それは鳥取大学医学部に、医学部としては、日本で初めて設置された生命科学科の押村光雄先生(鳥取大学、名誉教授)や久郷裕之先生(細胞ゲノム機能学分野、教授)たちによる研究が基礎となっています。ヒトには23対46本の染色体がありますが、がん細胞を詳しく見ていくと特定の染色体が抜け落ちる現象(染色体異常)が発見されました。であれば、正常な細胞からその抜け落ちた染色体をがん細胞に入れてみてはどうかと考え、「望みの染色体を細胞から取り、これを種差と言いますが、この種差が原因で治療薬のヒトでの安全性を実験動物では予測できないことがあります。そこで、「人工染色体」を用いて薬物代謝酵素の遺伝子を置き換えることによりヒトと同じような薬の代謝をすることが出来ます。その動物の助けを借りて、新薬の有効性や安全性の実証に役立てることが出来ます。

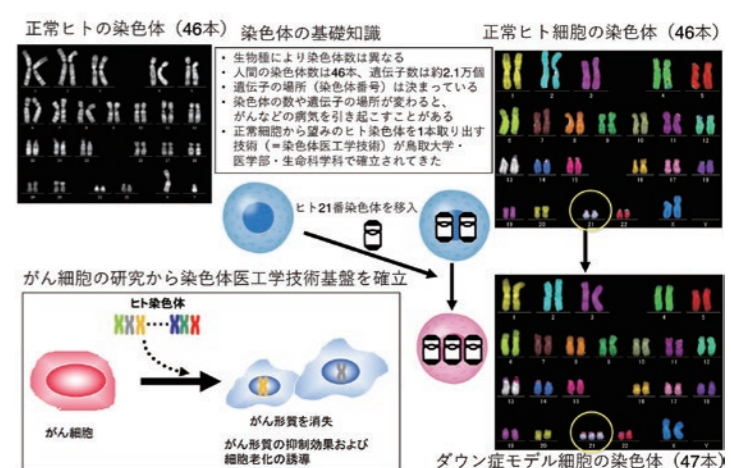


図1 望みの染色体を目的の細胞に導入する方法

「注」DNA デオキシリボ核酸。遺伝子の情報を記録している物質で遺伝子そのものではない。このDNAに記録されている全遺伝子情報を「ゲノム」という。

私たちの
研究室



工学部社会システム土木系学科

構造工学研究室

担当教員 谷口 朋代 教授

地震発生時の構造物の動きを
数式で表し、安全な設計に生かす

地震が起こったとき、建物や橋、液体貯蔵用タンク、大きな石像など、われわれの暮らしに関わっている

で、地震発生時の構造物の動きを数値で評価する方法の確立を目指しています。

や置き物も、地面の揺れと一緒に動きます。建物や橋のように基礎にしっかりと固定されている構造物は、地震の揺れに対する応答の仕方は一つの数式で表すことができます。しかし、タンクや大きな石像などの必ずしも基礎に固定されていない構造物は、地震の揺れに対して部分的に浮き上がった

また、橋梁や建物などにひび割れが生じた後の固有振動数「※」は、ひび割れがない状態のその千分の1〜1万分の1ほどしか変化しないという解析解を得ました。そのことは、ひび割れなどの損傷をより小さいうちに、より精度高く発見できる技術の開発に役立てることができると考えています。

り、滑って動いたりするため、例えば浮き上がる前と浮き上がった後では、数式を入れ替えながら計算し続けなければいけません。

その現象を説明するため、地震のような振動を発生させる水平振動台を用いて、タンクや石像などが揺れに対してどのように応答するのかを高速カメラを使って測定。その結果を応答に関係する物理量を見極めて作った数式の解析結果やグラフと比較すること

かな日頃の点検方法などの創出につなげることを目的に、日々研究に励んでいます。



たにぐち ともよ
谷口 朋代 教授
工学部社会システム土木系学科

※固有振動数：構造物が揺れやすい振動数のこと

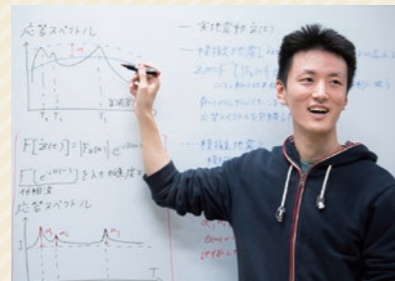
建物や橋が地震の時にどう揺れるのかを物理や数学を使って調べています

地震に強い最適な数値を持つ橋の設計法を開発

橋の主桁の下に免震装置を取り付けて耐震補強を行ったものを「免震橋」といいます。橋は、両端にある橋台と主桁の間に、温度変化による主桁の伸縮を逃がすための遊間(適正な隙間)が設けられています。免震橋は地震発生時に主桁を大きく動かして地震の影響を最小限に抑えるような造りになっていますが、遊間の広さは限られた範囲の中で設定しないとけません。そこで、橋の中程に橋脚を有する免震橋を対象に、橋脚の振動特性を考慮して最適な遊間を設定する方法の開発を目指しています。



やの けんいちろう
修士課程 2年 矢野 健一郎 さん



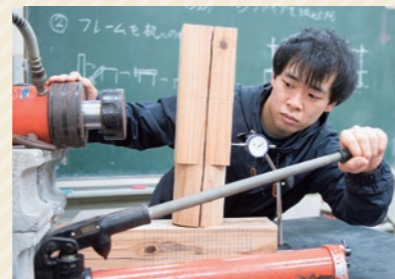
博士課程 1年 かいえだ たくみ
海江田 巧 さん

地震に対する性質を解析し
強い建物づくりに生かす

同じ地震の大きさでも、建築材料の違いや高さ、重さなどによって建物の揺れ方は変わってきます。地震に対して個々の建物が揺れやすい周期を「固有周期」といいます。建物の揺れは時間とともに弱まっていきますが、その弱まっていく程度を示すのが「減衰定数」です。固有周期または減衰定数が異なる構造物同士の最大応答の関係を解析的に明らかにし、重要な情報をできるだけ簡潔に見出して、より地震に強い設計に役立てるための解析を進めています。

伝統的な木造建築の
耐震性能の秘密を探る

日本の伝統的な木造の建物は、横架材という横に渡った木材に穴を開けて、柱を縦向きに立ててはめ込む軸組工法で造られています。地震で柱が動いても、木材の持つ柔らかさと耐力により、横架材に柱の接地面がめり込むような形で止まり、倒壊を免れるという例が多数あります。横架材への柱の接地面のめり込み方が伝統的な木造建築の耐震性能にどのように影響しているのかについて、四角い柱だけではなく丸柱も用いて物理的、数学的に解析しています。



はなさか かずき
修士課程 2年 花坂 和樹 さん

さまざまな事象に潜むメカニズムを解明し安全に貢献



研究室対抗ソフトボール大会
(感染症対策のためここ2年は中止)

直近5年以内の/
卒業生の主な進路

鹿島建設、大林組、大成建設、奥村組、三井住友建設、川崎重工業、瀧上工業、高田機工、駒井ハルテック、建設技術研究所、東亜建設工業

窓から差し込む陽光、川の流れ、人や車の動き。そんな日常の光景の多くを、数式に表すことができるという。世の中のさまざまな事象について、その後ろに隠れているメカニズムを物理的、数学的に解明。数字やグラフで表すことで安全性を客観的に評価する方法の確立へとつなげ、人々が安心して暮らせる生活の土台づくりに貢献する。

学生はテーマを自分で見つけ、それぞれの研究に取り組む。「成果の得られる研究もあれば、思うように進まないものもある。でも、結果はそんなに気にしなくていい。自分の興味あるテーマに、がむしゃらに取り組んだ先に見えてくるものがある」と教授。数字と真摯に向き合いながら、物事の本質を見極める力を身に付けていく。

週1回開かれるゼミでは、1人の発表に対して必ず全員が質問する決まりとなっている。「そうすることで、それぞれが得た知識に興味を持ち、お互いに知識量を増やすことができる」と谷口教授。研究ばかりでなく、毎年恒例の土木工学プログラムの研究室対抗ソフトボール大会では、教員と学部4年生、大学院生でチームを構成し、ボールを追いかけ汗を流すことも。こうして親睦を深め、リフレッシュを図ることが研究意欲の継続や新たな発想へとつながっている。

地域学部



PROFILE

ひがき さなえ

檜垣 早苗 さん

大阪府柏原市こくぶこども園 勤務
(保育士)
地域学部地域学科 人間形成コース
令和2年度卒業

1、2歳合同クラスの1歳児担任をしています。子どもたちが安心して過ごすことができるよう生活面を援助したり、毎日楽しい保育を考えたりしています。

私

は、子どもたちが自然豊かな場所でのびのびと育つことができる保育をしたいと思い、鳥取大学に入りました。大学では幼児教育選修に所属し、約半年の期間を使って一つの劇を完成させたいことはとても印象に残っています。題材を選び、演出を考え、衣装や小道具など一から作ることは大変でしたが、仲間と創り上げた達成感が、今保育現場に入ってから自信につながっているのだと強く感じています。また、ボランティア等で鳥取の自然豊かな土地で保育を見たり、講義で森のようちえんや、保育における環境づくりの大切さを



知ったり、鳥取ならではの学びを得ました。
働き始め、先日あった作品展では自分の技術不足に落ち込むこともありましたが、仲間と協力して作ることの楽しさ、達成感を思い出し、今の自分にできることは精いっぱいできたと感じています。これからも現場でたくさん学びを吸収し、保育士としてさらに成長していきたいと思っています。

工学部



PROFILE

かくだ こうすけ

角田 皓亮 さん

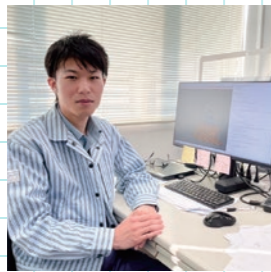
昭和電工株式会社 勤務(研究職)
大学院持続性社会創生科学研究科
工学専攻機械宇宙工学コース
令和元年度(2019年度)修了

シミュレーションと人工知能を活用し、新規材料探索および実験指針の策定、研究開発速度の加速に貢献しています。

在

学中は、物理学・数学・スーパーコンピュータを駆使して、次世代有機デバイス材料の開発を理論計算から取り組んでいました。大学院に進学後は産官学連携した幅広い研究を行い、就活時はこれまでの経験を活かせる環境や社会にインパクトを与えることのできる企業を志望していました。

昭和電工では、入社1年目から事業規模の大きいテーマに挑戦することができました。しかし、高い専門性や現場との深いコミュニケーションが求められる中で、新人であった私はなかなか成果を上げることができませんでした。その



ようなときに支えになってくれるのは上司や先輩、培ってきた経験と知識になります。何度も壁にぶつかりながら、不撓不屈の精神で取り組み、成果を出せたことは大きな自信へとつながりました。
今後は、さらに自身のスキルを磨き、計算科学より事業／開発の強化・加速・牽引を行っていきたくと考えています。

卒業生から「メッセージ」が届きました。 社会で活躍する先輩たち

今を聞く!



医学部



PROFILE

なかがき まこと

中垣 真琴 さん

鳥取大学医学部附属病院 勤務
(研修医)
医学部医学科
令和元年度(2019年度)卒業

病棟業務や救急外来での診療を行っています。2年間の初期研修中は、さまざまな診療科を回り、将来の進路について考える期間になりました。

現

在、初期研修医としての業務に追われながらも充実した毎日を送っています。学生時代、「チーム医療」という言葉をよく耳にしましたが、医師となった今、身をもってその言葉の大切さを感じています。看護師、臨床検査技師、薬剤師と、医療に携わる職種を挙げるときりがありません。それら全ての職種が患者さんのために必要不可欠な仕事であり、互いを尊重することが質の高い医療を提供するために大事であると考えています。
患者さんの生死に関わるような状況に遭遇し、何もでき



ない自分自身の不甲斐なさを痛感することも多々あります。しかし、そんな気持ちを吹き飛ばすほど、この仕事がいかにあふれていることは間違いありません。これからも謙虚に、そして指導医やほかの医療職の方への感謝の気持ちを忘れずに精進していきたくと思っています。

農学部



PROFILE

もとべ あかり

本部 星 さん

アジア航測株式会社 勤務(技術職)
大学院持続性社会創生科学研究科
農学専攻里地里山環境管理学コース
令和2年度修了

国や自治体を相手に、自然環境調査や自然公園や緑地の計画に関するコンサルティングを行っています。

私

は鳥取に生まれ、豊かな自然と温かい人々に囲まれて育ちました。その中で、人の利用が減り、寂れていく公園を目にして、もともと人が集まりたくなる緑地空間を創りたいと思い、鳥取大学農学部へ入学しました。在学中は緑地管理や造園について学んだほか、研究を通じて植生などの調査技術、GISでの解析技術などを十分に身に付けることができました。

現在は鳥取を離れ、神奈川で環境コンサルタントとして働いています。大学で培った調査・解析技術も生かしつつ技術開発などにも関わることでできており、上司や先輩



と議論して成果を出していくことに大きなやりがいを感じています。
最近、地元の同級生が地域おこしを行っている様子を見聞きすると、うらやましい気持ちになります。いつか私も鳥取に豊かな自然を生かした憩いの空間をつくれるよう、さまざまな現場で多くの経験を積んでいきたいと考えています。

新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS



鳥取大学着任日：2021年4月1日

地域学部地域学科 国際地域文化コース

よねだ まりこ
米田 真理子 教授

専門 日本中世文学
趣味 散歩／映画鑑賞

つれづれに思ふこと

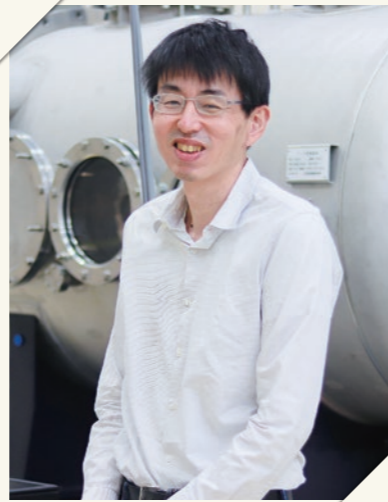
日本の中世文学を研究しています。主に散文作品を対象としており、その一つ『徒然草』は誰もが知る古典ですが、作者兼好の時代に随筆という文学ジャンルはありませんでした。では兼好は何を目指したのでしょうか。外国の文字である漢字を用いて表現してきた日本の文学の歴史において、兼好が達成したのはどのようなことだったのか。またフランスのモンテーニュが『エッセー』を書いたのは十六世紀のことですが、いまから七百年前に成立した『徒然草』を世界文学史に位置付けるとしたらどうなるか。こうしたことを考えていると、「あやしうこそものぐるほしけれ」と述べた兼好の心持ちにだんだん近づいていくような錯

覚に陥ります。

古典文学の世界には再考すべき問題がいまなお多くあり、私の研究課題もまだまだ山積みですが、昨年4月に地域学部国際地域文化コースに着任して、様々な分野の先生方と接するうちに、グローバルな視角から日本の古典文学を捉えることにもチャレンジしてみました。いと考えるようになりました。それには柔軟な発想が不可欠です。ガチガチに固まった私の思考を解放するには、雄大な自然に囲まれた鳥取大学はこういうえない環境だと思っています。時間もゆったり流れているように感じます。鳥取での研究生活にどんな可能性が詰まっているのか、私自身とても楽しみにしています。

新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS



鳥取大学着任日：2021年4月1日

工学部機械物理系学科 宇宙推進工学研究室

かつらやま ひろし
葛山 浩 教授

専門 先端宇宙推進・宇宙輸送工学
趣味 ジョギング／ドライブ／温泉

星取県「※」から宇宙工学を

令和3年4月に鳥取大学に着任しました。私は、三重県出身で、東大で学位を取得後、JAXAで4年間研究員を、山口大学で12年間教員をしてきました。私の専門は航空宇宙工学で、レーザーや磁場を使ったロケットや宇宙船など、少しSFチックな研究をしています。これまで人類は、燃料式の化学ロケットを使って宇宙へ物を打ち上げてきましたが、コストが高く、宇宙開発の妨げになっています。我々はこれに代わる安価なシステムとして、レーザーをエネルギー源とする革新的ロケットの研究を行っています。

また、宇宙船は大気圏突入時に過酷な加熱を受けるため断熱材による熱防壁を行います。その安全性は決して高くありません。我々

は磁場を用いて不可視の盾を作り、宇宙船を確実に加熱から守る新しいシステムの研究を行っています。宇宙開発はまだ産業規模の小さい分野ですが、逆に言えば将来性のある分野です。また、独自の特殊技術を必要とすることが多く、中小企業が参入しやすい分野でもあります。私の研究は宇宙工学の中でも挑戦的な類いのもですが、研究や教育を積極的に発信することで「星取県」としてのアピールや地元企業の活性化に少しでも貢献できたら幸いです。

「※」星取県

鳥取県は、どの市町村からも天の川が見え「夜空を見上げれば星に手が届きそこなほど美しい星空を持つことから「星取県」と名乗っています。

脳の無限の可能性を求めて



鳥取大学着任日：2021年1月1日

医学部医学科脳神経医学講座 脳神経内科学分野

むらかみ たけのぶ
村上 文伸 助教

専門 臨床神経学
趣味 旅／マラソン／地酒・地ビール巡り

「面白いことを鳥取から世界へ！」こんな想いを胸に、令和3年1月に着任しました。私は島根県津和野町出身で、平成14年に鳥取大学を卒業。その後7年間、山陰で脳神経内科医の基礎を学びました。平成20年から3年間ドイツのフンボルト財団奨学金を得て、フランクフルト大学で脳機能研究に携わりました。そこで脳の無限の可能性を肌で感じる事ができました。ドイツ滞在中は、ベルリンにある森鴉外の下宿も訪ねました。帰国後は東日本大震災直後の福島県立医科大学で、診療を通じて復興の応援をしながら脳研究を続けました。平成31年に鳥取県に帰り、県内中部の病院で勤務の後、約13年ぶりに母校に戻ってきました。

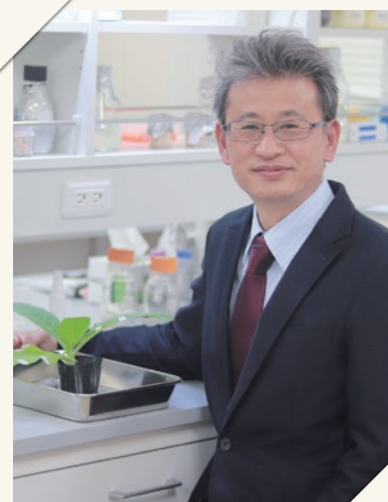
私の研究テーマは脳の可塑性、いわば神経細胞の柔軟性に関することです。脳刺激で潜在的な「脳力」をいかに引き出すか、逆に柔軟性が失われた神経疾患ではどのように変化するかを探索し、再生する手段を模索しています。ドイツ滞在中は世界一美味しいビールを飲み歩きました。福島では世界一美味しい日本酒を楽しみました。鳥取では診療を行いながら、全国・世界へ発信できる面白い仕事や研究をしようと考えています。また、そんな人材の育成にも尽力したいと思っています。

「安全安心な農産物」「農産物の生産性向上」「労働安全の確保」などを加味した、持続可能な農業が求められています。なぜ、「持続可能な農業」が求められるようになったのでしょうか。2000年以降、「食の安全」に関わる事故が散見されました。それらの背景に、農産物の栽培管理、食品加工管理などが問題となったことは記憶に新しいことと思います。そのため、農作物の安心安全に対する根拠が求められる時代を迎えています。つまり、農産物に対する信頼を目に見える形にする必要があるのです。

私の所属する鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター(FSC)では、「農産物に対する信

目に見えないものへの信頼

頼」を可視化するシステムとして「農業生産工程管理(GAP)」を導入する取り組みを始めました。私の研究分野である食料生産システム管理では、農産物生産の起点が種子であることに着目し、「植物病原体に感染していない種子(健全性種子)」に関する研究を行い、「目に見えない健全性を目に見える形にすること」で信頼ある農産物生産の起点の確立につなげたいと思っています。「GAP」や「健全種子研究」を通じて、学生の皆さまには「農産物への信頼」を築くことができる人材に育ってもらいたいと願っています。



鳥取大学着任日：2021年4月1日

農学部附属 フィールドサイエンスセンター

きど かずたか
木戸 一孝 准教授

専門 食料生産システム管理学／植物病理学
趣味 ハイキング／映画鑑賞

地中海・宍道湖一斉清掃に医学部学生がボランティアとして参加

2021.10.24



ラムサール条約に登録されている中海^{*}は、本学医学部キャンパスに隣接しており、沿岸にある湊山公園とともに、地域住民および学生の憩いの場となっています。毎年、地域活動として米子市が実施している「中海清掃」に、令和3年10月24日(日)、医学部学生がボランティアとして地域住民の皆さんと一緒に参加しました。

医学部では、キャンパス美化や環境保護などに取り組む「グリーン運動」を推進しており、今後もその活動範囲を周辺地域にも展開し、活動に積極的に参加していく予定です。

^{*}中海(なかうみ)
島根県の東部と鳥取県の西部にまたがって位置している、日本では数少ない連結汽水湖。面積では日本で5番目に大きい湖。

コンテストで優秀な成績を収めた学生団体が学長に報告

2021.12.23



地方創生★政策アイデアコンテストにて、本学より出場した2団体が優秀な成績を収め、学長に報告しました。「御来屋駅舎プロジェクト」は、御来屋駅周辺の観光名所巡りや名産品製作体験などを組み合わせた日帰り観光客向けツアーを中心とした、県外の人が集まりやすいコンテンツをつくり出すアイデアを発表し、協賛企業賞を受賞。「学生団体ツナガルドボク」は、地方短期滞在体験とインターンシップを融合させた「暮らすインターン」というアイデアを発表し、優秀賞を受賞しました。

報告を受けた学長は「2団体とも素晴らしい発想で、地域貢献に関する事業の実現に向けて頑張っている、大学としても応援します。」と言葉を贈りました。

WHAT'S NEW?
大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。

令和3年度鳥取大学みらい基金事業伝達式を実施

2021.11.9



令和3年度鳥取大学みらい基金事業伝達式を執り行いました。鳥取大学みらい基金は、本学の教育研究、学生支援、国際交流、地域貢献などの各種事業を支援する目的で平成21年度に設立したもので、学内外の方々からのご寄附により運営しています。今年度は、学生支援事業として音楽サークル支援事業を選定し、吹奏楽用楽器の整備を行いました。

式には鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブル関係者をはじめ約30名が出席し、中島学長から小早川吹奏楽団団長に目録が贈呈されました。吹奏楽団を代表して小早川さんがこのたびの支援への謝辞を述べた後、吹奏楽団による楽器のお披露目演奏が行われ、出席者からは盛大な拍手が送られました。

選挙における「民意」とは…?

(※計10選挙区で構成される小さな民主主義国家を想定)

	選挙区									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A党	110	110	110	110	110	110	10	10	10	10
B党	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

条件

- ◆小選挙区制(定数1)、各選挙区とも候補者は2人だけ
- ◆A・B両党は互いに対立する政策を主張している

どちらが「民意」をより強く主張できる???

- ・ルール上は、A党が勝利(A=6議席、B=4議席)
- ・得票数を合計すると、B党が上回る

豊かな教養と幅広い視野を備えた
素敵な大人になるための
「**全学共通科目**」を
ピックアップしてご紹介します。

現代社会で
生きる力を磨く

教養の場



担当教員

しおざわ けんいち
塩沢 健一 教授
地域学部地域学科 地域創造コース



政治学

政治学は、あるべき政治のすがたを議論する「政治哲学」と、あらゆる政治的現象について因果関係を明らかにする「政治科学」に大別されます。本講義では主として政治科学の分野で蓄積されてきた理論や仮説を踏まえ、現実の政治が機能するメカニズムを解説します。



受講した学生の声



のぞみ ひなみ
野添 姫七美 さん
地域学部地域学科 地域創造コース 1年

この授業を選んだ理由は?

私は地歴公民の教員免許の取得を目指しているため社会系の科目を学びたかったのと、高校の時に習った公民の中で政治分野に興味があったので、大学ではより知識を深めたいと思い受講しました。

授業を受けた感想は?

この授業では国政を中心に学ぶことができます。私は学部の専門科目である自治体政策過程論も取っているので国と地方の政治を比較しながら学べてとても面白いです。また、学期中に衆議院選挙もあったのでより興味を持つことができました。

正解のない「政治」の
あらゆるメカニズムを
科学的に理解する

本講義は、自然科学的な手法を取り込みつつ政治的現象や政治行動を科学的に分析しようとする「行動論」や、制度が政治的決定に大きな意味を持つとする「制度論」に多くの部分を依拠して、政治を科学的に理解することを目指します。「政治」と「科学」は、どう結びつくのでしょうか。例えば制度は、政治や社会をある特定の方向に仕向ける効果を持ちますが、小選挙区制の下では二大政党制が促進される、といった因果関係が特定の制度の下で見出されることが、事実の詳

細な観察を通して分かります。こうした効果は選挙制度に適応した政治家・政党の戦略や、有権者個々人の行動の集積がもたらすものとして説明できます。しかし一方で、今日の日本政治における「自民一強」といわれる現実を通して、単に制度さえ整えれば意図した結果に辿り着くわけではないことも理解できます。講義内でも紹介するように、制度上の「勝者」と実質的な「勝者」が異なることさえ起こり得ます(上図参照)。このように考えると、政治の世界に「唯一絶対の正解」はほとんど無いことに気付くだけです。私も「正解」らしきものはできるだけ示さず、本講義では多様な見方をバランス感覚を持って提供することを心がけています。

大学からのお知らせ

INFORMATION

鳥取大学の基金

鳥取大学では、学生・若手研究者等支援、教育研究、国際交流及び地域貢献などの事業を支援するため、基金を設置しています。本学の各種事業にご支援いただきますようお願いいたします。

支援事業のために

学生支援のために

みらい基金

本学の基本理念に基づく目標の達成のために助成し、もって本学の振興に資することを目的としています。

- | | |
|---|---|
| 1 教育研究支援事業
教育研究の設備整備、高度化の支援などを行います。 | 2 学生支援事業
優秀な学生への奨学金、課外活動の支援などを行います。 |
| 3 国際交流支援事業
本学学生の留学、外国人留学生の修学、学術交流の活性化の支援などを行います。 | 4 地域貢献支援事業
地域との連携推進、産官学の連携強化の支援などを行います。 |
| 5 若手研究者等支援事業
学生又は不安定な雇用状態にある研究者が行う研究活動の支援などを行います。 | 6 その他
その他の事業で、大学の発展に資する事業を行います。 |

修学支援事業基金

経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的としています。

- | | |
|--|---|
| 1 教育研究支援事業
授業料、入学金又は寄宿料を免除する支援を行います。 | 2 学生支援事業
学資を給付又は貸与する支援を行います。
(鳥取大学とりりん奨学金) |
| 3 国際交流支援事業
海外への留学に係る費用を支援します。 | 4 地域貢献支援事業
学生を教育研究に係る業務に雇用するために係る経費を支援します。 |

優秀学生や修学支援のための奨学金 課外活動の支援 派遣学生や留学生の支援

ご寄附の申込方法 ※詳細は「鳥取大学の基金」のWebサイトをご参照ください。

ご協力をお願いする寄附金
ご寄附：1口 1,000円

※1口1,000円から、何口でも結構です。

- インターネットからのご寄附(クレジット決済)
 - 郵便局(ゆうちょ銀行)・銀行振込でのご寄附
- ※Webサイトから、払込取扱票等お取り寄せフォームをご利用ください。

お問い合わせ

国立大学法人鳥取大学 総務企画部 総務企画課 Tel 0857-31-5006

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101
E-mail kikin@ml.adm.tottori-u.ac.jp

鳥取大学の基金について詳しくは

鳥取大学の基金



編集後記

EDITOR'S NOTE

本号の特集は「地域に根ざす鳥取大学」と題して、本学と地域をつなぐ役割を担っている「地域価値創造研究教育機構」の活動についてご紹介いたしました。本学では地域の皆様に必要とされる大学を目指し、様々な活動を行っております。本号では学生を中心とした地域活動をメインに取り上げました。大学を飛び出して、生き生きと活動する学生の姿は、いかげつたでしょうか？今取材に協力いただいた「ばばのばプロジェクト」は、今年度入学した1年生が立ち上げたもので、意識の高さや行動力に感心するとともに、今後の活動がますます楽しみです。地域と本学のつながりについて、読者の皆様に新たな発見をお届けできていましたら幸いです。また、本誌を読んだ学生の皆さんが地域活動に興味を持ってもらえたら、とても嬉しいです。

今回も感染症対策に万全を期して取材や撮影を行いました。プレゼントが当たる読者アンケートがございますので、ご協力いただけますと幸いです。読者の皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

Circle Activities



部長

やまもと りょうた
山本 亮太さん
農学部生命環境農学科 2年

体育会体操競技部は週に5日(月・水・金・土・日曜日)、第二体育館でOBの皆さんと一緒に汗を流しています。日々の部活動は、代々の先輩が作ってくださった練習メニューを基に、各自が必要な練習に取り組んでいます。部員は面白い人が多い。実はみんな体操競技の初心者なんです。お互いにアドバイスをしながら懸命に技術を磨いています。体操競技の魅力は、常に高みを目指し続けられることです。技の数がとても多いので、在学中に全てを習得することは難しいものの、簡単な技であっても「メリハリをつける」「指先を伸ばす」など、細かいところまで突き詰めて完成度を上げていくところに面白さがあります。

中国五大学学生競技大会では現



在、団体男子は3連覇中。昨年と今年は新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止となってしまいましたが、4連覇に向けて練習に励んでいます。

現役部員が12名しかおらず、特に1年生の人数が少ないので、部員をたくさん増やすことも大きな目標の一つです。体操競技部に入部すれば筋骨隆々になれる上に、熱い青春を送ることが出来ます。体操競技は難しいと思われがちですが、私たちが手厚くサポートしますので、興味のある方はいつでも気軽に第二体育館へお越しください。部員一同、心からお待ちしております！

学生広報スタッフがインタビュー!!
サークル紹介
体育会体操競技部



サイエンス・アカデミーのご案内

要予約 受講料無料

※中止となる場合もあります。

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00

会場

鳥取県立図書館 2階 大研修室
(鳥取市尚徳町101)

LIVE (●●)

米子市立図書館、倉吉市立図書館、琴浦町立図書館、加藤文太郎記念図書館、大山町立図書館*、南部町立図書館*でライブ中継による聴講ができます。

※印の図書館は、第4土曜日のみ

zoomを利用してご自宅でも視聴できます。

- 事前申し込み制です！開催の前の月から受付を開始いたします。申し込みの締め切りは開催日の前日正午です。ただし、満席の場合はお断りすることもありますのでお早めにお申し込みください。
- キャンセルされる場合は前日の正午までにご連絡をお願いいたします。
- コロナウイルス感染状況により、中止または延期、開催方法を変更する場合がございます。
- 発熱やせきなど体調に不良のある場合はご遠慮ください。
- マスク着用と手指消毒にご協力ください。

テーマ/講師

2/26± 鳥取大学の教育・研究を陰で支える黒子
～技術職員～の紹介
技術部化学バイオ・生命部門
松浦 祥悟 / 松見 吉朗

3/12± 「地域資源」ってなに？どうやって活用するの？
-「草刈り隊」によるリアルな地域活性化術-
農学部生命環境農学科 講師
木原 奈穂子

3/26± いくつになっても おひとり様になっても！
地域で健やかに暮らすヒント
～県内のある地域における調査結果から～
医学部保健学科 助教
徳嶋 靖子

受講のお申し込みは
申込フォーム・電話・FAX・メール・郵送
にてお願いします

鳥取大学 地域価値創造研究教育機構 地域連携推進室
〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-6777 FAX.0857-31-6708
【E-mail】koken@ml.adm.tottori-u.ac.jp 【Web】https://www.core.tottori-u.ac.jp/ 申込フォーム→





読者アンケートにご協力いただいた方へ

プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 4/30(土)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



鳥取大学オリジナル
文房具セット

合計
10名様

情報通信の力で
安心・安全・快適な社会を
実現します

鳥取で、世界最先端の
ソフトウェア開発にチャレンジ!

鳥取西菱電機株式会社 とっとりせりようでんき 検索

OHTORI 大鳥機工株式会社

IMC-500

工作機械
繊維機械
ハードウェア
電子部品製造装置

鳥取市南栄町19番地
TEL0857-53-4611

測る、創る、診る
～技術で地域を支えます～

鳥取・倉吉・米子を拠点に
測量・調査・設計から維持管理まで

西谷技術コンサルタント株式会社
Nishitani Engineering Consultant Co.,Ltd.

あなたのスマホが通帳に

TOTTORI BANK 鳥取銀行

とりぎん アプリ

「残高照会」や「入金明細照会」が、スマートフォンアプリでカンタン!

iOS 版

Android 版

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌 検索



鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験	0857-31-5061	■研究・産官学連携	0857-31-5608
■公開講座・社会貢献	0857-31-6777	■学生・学生生活	0857-31-5053
■授業料納入	0857-31-5029	■学生就職支援	0857-31-5456

その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/ask/> をご覧ください

編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会 2022年2月発行

會見 忠則 (委員長・農学部)	関 耕二 (地域学部)	西村 正広 (医学部)	塩崎 一郎 (工学部)
辻 渉 (農学部)	滝波 稚子 (教育支援・国際交流推進機構)	保坂 理和子 (研究推進機構)	藏田 修一 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>